

会 議 録

会 議 の 名 称	令和8年度 第2回 美幌町高齢者保健福祉・介護保険事業推進委員会
開 催 日 時	令和8年8月28日 (金) 午後6時25分 開会 午後6時55分 閉会
開 催 場 所	しゃきっとプラザ 1階 集団健診ホール
出 席 者 氏 名	田中委員、中矢委員、中川委員、染谷委員、馬場委員、磯野委員、平田委員、 佐野委員、竹川委員、益田委員、塩田委員、荒川委員、佐藤真一委員、疋田委員、 佐藤真也委員
欠 席 者 氏 名	佐々木委員、藤野木委員、千葉委員
事務局職員職氏名	吉田福祉部長、小成保健福祉課長、立花健康推進グループ主査、大野健康推進グループ主査、辻高齢介護グループ主査、高木主事補
議 題	1 開会 2 委員長あいさつ 3 説明事項 (1)アンケート調査結果について (2)基本方針(案)について 4 その他 5 閉会
会議の公開又は 非公開の別	公開
非 公 開 の 理 由 (会議を非公開とした場)	
傍 聴 人 の 数 (会議を公開した場合)	0名
会議資料の名称	令和8年度第2回美幌町高齢者保健福祉・介護保険事業推進委員会議案・資料
会議録の作成方針	☐ 録音テープを使用した全部記録
	☒ 録音テープを使用した要点記録
	☐ 要点記録
その他の必要事項	

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
1 開会(小成課長)	少し時間は早いですけれども、皆様揃いましたので始めたいと思います。 ただいまから、令和8年度第2回美幌町高齢者保健福祉・介護保険事業推進委員会を開催いたします。この委員会は、美幌町審議会等の会議の公開に関する条例第3条の規定により原則公開となっており、会議の傍聴ができることとなっておりますのでよろしくお願いいたします。 なお、本日藤野木委員、佐々木委員、千葉委員より欠席の連絡をいただいておりますのでご報告いたします。それでは開会にあたり、田中委員長よりご挨拶をいただきたいと存じます。田中委員長、お願いいたします。
2 委員長あいさつ (田中委員長)	皆さん、こんばんは。お忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。今回、第2回の高齢者保健福祉・介護保険事業推進委員会を開催することとなりました。 最近は災害が多く、災害で犠牲になっている方は日本の場合は残念ながら高齢者が多い状況でやはり日本は高齢化社会へどんどん進んでいるということがわかります。先日私が担当する患者さんが特別養護老人ホームに入所して1ヵ月ばかりで残念ながらなくなってしまい、もう少し早く入所できていればもうちょっと長く療養できたのかなというような問題もあるかと思います。 今後やはり高齢化がどんどん進み、2040年には高齢化のピークになると言われています。しかし、美幌町ではすでに高齢化率が35%を超えており、もっと切迫した状態であると考えています。特に、小さい自治体などでは高齢化が進み、緊急事態になっているのではないかと考えています。 本日はアンケート結果を踏まえ、色々な話になると思います。皆様から大胆なご意見を色々いただければと思いますので、今日はひとつよろしくお願いいたします。ありがとうございます。
(小成課長)	ありがとうございました。 それでは早速ですが、事前にお配りしている議案に沿って、議事に進みたいと思います。美幌町附属機関に関する条例により会議の議事進行及び議長は委員長が行うこととなっておりますので、これからの議事進行につきましては、田中委員長にお願いしたいと思います。田中委員長、よろしくお願いいたします。
3 説明事項 (田中委員長)	それでは議事を進行させていただきます。先ほども言ったように「アンケートの調査結果」ということで事務局の方から説明をお願いします。
(1)アンケート調査 結果について (高木主事補)	皆様、こんばんは。担当の高齢介護グループ高木と申します。それでは私の方からアンケートの調査結果についてご説明させていただきますので、よろしくお願いいたします。 お配りしている資料1をご覧ください。日常生活実態調査のアンケート結果について、こちらは令和8年2月6日から同年3月19日を期間として実施したもので、対象者は美幌町の65歳以上の高齢者で要支援1・2を受けている方及び

	介護認定を受けられていない方の中から、無作為に抽出した 1,800 人の方々となります。回収率は 64.8%で、計 1,167 人の方から回答をいただいております。 資料 1 ページをご覧ください。「家族構成」については、高齢者のみの世帯が全体の 70.5%を占めており、配偶者が 64 歳以下の世帯も含めた場合 73.7%となるため、家族による支援が限定される世帯が非常に多い状況となっております。 また、独居世帯については、24.6%を占めており、今後さらに増加する可能性が高い状況となるため、安否確認や引きこもり対策、災害時の避難支援等の充実が必要であると考えられます。 続いて資料の 2 ページ、3 ページをご覧ください。「介護または介助が必要となった主な原因」については、「高齢による衰弱」が 17.5%、「骨折・転倒」が 12.0%、「関節疾患」が 15.8%のほか、「心臓病」が 14.2%など、生活習慣病の疾患が上位を占め、原因としては疾病の他にも介護予防によってリスク軽減ができる要因も含まれていることから、生活習慣病の重症化予防、フレイル予防、介護予防を分断せず、一体的に進める必要があると考えております。 また、過去 1 年間の転倒の有無について、「1 度ある方」が 28.9%、「何度も繰り返している」という方が 12.9%と約 4 割の方が転倒経験があると回答しており、半数以上の方が転倒に対して不安を抱いているという回答をいただいております。 外出状況については、よく外出する方が多い一方で、28.4%の方が外出を控えており、その要因としては「足の痛み」が 46.7%、「外での楽しみがないこと」が 28.4%で身体的な要因だけでなく、外出する目的も課題となっているため、通いの場や買い物、趣味活動など、出かけたくなる場所と一体的に考える必要があると考えられます。 なお、外出時の移動手段について、「自動車、自分で運転する」という方が 64.8%と非常に高く、免許保有率も 69.6%となっております。現時点で運転免許を返納された方は 11.9%ですが、今後運転免許の返納により外出機会が一気に減少するリスクが懸念され、自動車を運転できなくなった後の生活を支える異動手段の持続的な確保が課題になると考えられます。 続いて資料の 4 ページ、5 ページをご覧ください。
(平田委員)	趣味のページって入っていないですね。 この「問 4」のなんとか、「問 5」のなんとか、そういう説明をしてくれないとどこを言っているのかわからない。
(高木主事補)	大変失礼いたしました。それでは問 4 をご覧いただければと思います。趣味のある方についてですが、「趣味がある方」が 65.0%にのぼる一方、44.2%の方が「生きがいが思いつかない」と回答されております。また、問 5 になりますが、既存の老人クラブやサークル等の活動に参加されていない方が 50%以上を占めている状況です。一方で地域づくりの活動については、半数以上の方が参加に意欲的でボランティア活動においても「見守り・声かけ」が 20.7%、「ゴミ出し」が 13.2%と何かしらの活動ができると考えている方が多いことがわかります。

また参加しやすい形態として、「身近な場所で行われている」、「一緒に活動する仲間がいる」などが上位を占めているため、既存のサークル等の周知を図るとともに実施しやすい環境の整備、高齢者をサービスの受け手としてのみ捉えず、元気な高齢者が地域の支え手として活躍できる仕組みを作り、その活動自体を介護予防や生きがいにつなげることが重要だと考えております。

続いて問6の就労状況についてです。就労状況について「非常勤」の方が16.9%、「自営業」の方が11.9%など、高齢期にも就労している方が一定数存在しています。就労は外出、社会参加、他者との交流など介護予防上の効果も期待できることから、就労、ボランティア活動、地域活動など別々に分けるのではなく、年齢や身体状況に応じて社会とのつながりを持ち続けられる環境づくりが必要であると考えられます。

続いて問7の生活で「何かあったときに相談する相手の有無」について、38.7%の方が相談相手がいないと回答されており、今後独居高齢者が増えていくことが想定されるなか、家族や友人、知人以外にも相談相手がいることの重要性が高く、地域による見守りの強化や孤立防止を図ることが必要であると考えます。

また、公的な相談先である「地域包括支援センター、役場」を挙げた方は21.8%にとどまり、高齢者本人にとって相談できる相手として十分に定着するよう、重点的な見守り・相談体制を強化することが重要だと考えております。

続きまして次のページの間8になります。在宅での生活を希望する方が49.5%を占めており、特別養護老人ホームなどの施設を大きく上回っている状況です。在宅生活を継続できるよう、居宅サービスの充実だけでなく、見守り、除雪等含む生活支援を組み合わせた施策が重要だと考えます。

次に問9の町内の高齢者施設の数については、「よく分からない」と回答した方が47.3%と最も多く、実際の待機者数や稼働率、今後の将来人口などの客観的データと町民意識を組み合わせる必要がありと判断する必要があると考えられます。

また問10の介護保険料とサービスの在り方について、「分からない」方が35.5%、「現状程度」が23.8%、「サービスを抑えて保険料も低く」が16.3%など意向が一方でないため、次期計画策定においても単に保険料額を示すだけでなく、どのサービスにどれだけの給付額が必要でその結果保険料がどうなるかを分かりやすく説明し、給付と負担のバランスを図りながら判断する必要があると考えられます。

最後のページですが、問11の町が提供する福祉サービスについて、移送サービスや緊急通報、除雪サービスなど、そのサービスも利用希望ニーズが高いことが分かりますが、どの事業も担い手不足が懸念される事業であり、利用意向のみから事業を決定するのではなく、年齢や介護状態など実際の利用実績を踏まえ、今後の需要を推計する必要があると考えております。

続いて資料2の在宅介護実態調査についてご説明いたします。日常生活実態調査と同様の期間で実施し、美幌町の65歳以上の方で要支援認定または要介護認定を受けて在宅で生活されている方の中から無作為に抽出した500名の方を対象としており、回収率は58.6%と293名の方からご回答いただいております。

	1 ページの問 2「世帯類型」について、夫婦のみの世帯と単身世帯の割合の合計は 63.8%で、家族の支援力が限定される世帯が多い状況となっております。日常生活実態調査と同様に、今後独居が増える可能性が高く、安否確認や引きこもり対策、災害時の避難支援等の充実が重要だと考えております。 また問 5 ですが、高齢者本人の要介護度について、全体の 75.8%が軽度者で、介護予防、生活支援、重度化防止といった施策の充実が必要だと考えられます。 続いて次のページの問 7 ですが、在宅高齢者の抱える傷病について「認知症」が 29.4%と最も多くなっております。認知症を抱える単身高齢者の増加を想定し、地域の見守りの充実、また本人の権利と利益を擁護する成年後見制度の普及と支援体制の強化が求められていると考えております。 次のページの問 4 では、主な介護者の年齢について全体の 72.1%が 60 代以上の高齢世代を占めており、老々介護の実態がうかがえます。今後さらなる老々介護の深刻化が懸念され、在宅介護を支えるサービス等の充実を図り、介護者の負担軽減の仕組みを推進することが重要であると考えられます。また、介護者が抱える不安・悩みについては、「認知症状への対応」が 25.9%と最も多く、ご本人が抱える傷病も認知症が最も多いという結果のため、本町といたしましても今年度より認知症施策の取り組みを強化しているところです。引き続き安心して暮らせる美幌町を目指し、介護者の不安に寄り添うため、認知症関連の事業を推進していく必要があると考えております。 続いて資料 3 の介護事業所向けアンケート結果についてご説明いたします。こちらのアンケートの調査は、令和 8 年 5 月 25 日から同年 6 月 12 日を期間として美幌町内の全 25 事業所に対して実施したものでございます。 1 ページからご説明いたします。まず問 1 の「利用者数」について前回結果と比較すると増加が 3 割、減少も 3 割となっており、減少の要因としては需要がないから減少したということではなく、「介護人材の不足により受け入れができなかった」という回答が 46.2%に達しております。 また、「ケアマネージャーの原因による」といった意見もあることから、依然として介護人材の不足が極めて大きな課題となっております。 続いて 2 ページの問 2「サービスを利用した効果」について、「大変効果がでている」、「やや効果がでている」の 2 つを合わせると 68.2%と全体の約 7 割を占めており、具体的な効果としても「利用者の笑顔が増えた」、「リハビリによって自信がつき自立してサービスを卒業した」など素晴らしい成果が挙がっております。このことから、美幌町の介護サービスは非常に質の高いサービスで、利用者の自立や在宅生活を支える確かな効果があることが分かります。しかし、それが人材不足という問題によってサービスの質の維持が難しくなっていることが問題として挙げられ、人材不足への対策が極めて重要であると考えております。 続きまして 3 ページの「地域密着型サービスにおける今後の事業展開」について、既存の地域密着型サービスのほとんどが「現状維持」あるいは「縮小」の傾向で、拡大の意向については「0（ゼロ）」となっております。今後の新規事業の展開予定についても 92%が「予定なし」との回答で、その原因についても「人材
--	---

(田中委員長)	不足への懸念」が 68%と半数以上を占める結果でございます。 続いて 4 ページの間 6 「介護職員の状況」について、現在の介護職員は全体で 486 名ですが、そのうち 50 代以上の職員が 239 名と約半数を占めており、今後見込まれるベテラン職員の退職とともに、若年層不足を考慮した職員確保策が必要であると考えられます。 また、次のページの間 7 「運営上の困難」については、「人材の確保が難しい」という回答が 27.6%と最も多く、次いで「事務作業が多い」が 14.5%となり人材確保及び育成支援とともに事務負担の軽減も必要であることが考えられます。 続いて 6 ページの間 10 の「職員が確保できない・定着しない理由」については「給与水準」が 36.7%、次いで「精神的・体力的に厳しい」という回答が 23.3%で給与面での課題と併せて、介護職員の高齢化、人材不足による職員 1 人あたりの負担が大きいことが伺えます。人材の確保・定着は、採用だけで解決する問題ではなく給与・業務負担・ICT 化など、一体的な改善が必要で各問でも繰り返し問題として挙がっているため、アンケート全体を通した最重要課題だと考えております。 なお、4 ページに戻りますが、人材不足等の影響を受けて、美幌町で不足しているサービスでは「訪問介護」が 28.1%、「居宅介護支援」が 12.3%など施設サービスのみならず、訪問、移動、生活支援など在宅サービスの不足も課題であると考えております。 また、ケアマネージャー不足により、サービス調整機能の低下にもつながることから、そういった人材確保についても重要な課題だと考えております。 次に資料の 8 ページの間 12 「地域包括支援センターの機能強化」について、回答としては「情報提供の充実」が 21.4%、「困難事例への支援の充実」が 17.9%と各機関との連携強化をより高めていく必要があると考えられます。 続いて 9 ページの間 17 「地域包括ケアシステムの深化・推進」について、事業所単独では「人材・医療連携・生活支援・見守り等」の解決ができないことから、回答として「行政の支援体制の充実」が 20.7%と最も多く、行政に対して調整役、基盤整備役としての役割が求められていると考えております。具体的な支援策については、「潜在介護有資格者の発掘支援」が 18.6%、続いて「介護現場のイメージアップ」「介護ロボット・ICT の活用支援」と続いており、個々の事業所では実施しにくい共同的な取り組みが求められていると考えております。 資料の最後に記載のある自由意見のなかにも、町全体での「ケアプランデータ連携システム」や、今後控えております情報基盤の活用など、具体的な ICT 化の要望が上がっている状況でございます。 以上、アンケート調査結果の説明とさせていただきます。 ありがとうございました。 資料 1 について、対象者は「認知症がないあるいは軽微な認知症の人たち」ですが、意外にも何らかの手助けを必要とする人の割合が多かったこと、あとは車の運転をしている人が多く、要介護になると普通は運転ができなくなるのですが要支援の段階だとこれだけ高いというような印象を受けました。
----------------	---

	資料2になると要介護の方も含まれ、当然のように認知症が増えますが、やはり要支援を除いた要介護1・2の人を合わせると認知症の構成比が大体一致するのかなということで、要介護度が上がると認知症の比率が強くなってきていることが分かります。 資料3になると、やはり介護人材の不足が深刻な問題ということ、収入面の問題もあります。 この資料1から3について何かご意見、ご質問のある方がいらっしゃいましたらぜひお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。
(田中委員長)	それでは私の方から質問なんですが、資料3のなかで人材不足への対応として現在、美幌町において海外の人がどれくらい働いているかの割合、人数はわかりますか。
(小成課長)	この調査時点における回答では、全体の介護職員486名のうち27名だったかと思います。
(田中委員長)	ということは、全体の約5%強くらいということですね。ちなみに美幌町の特別養護老人ホーム等の施設では、どのくらいの割合でしょうか。
(小成課長)	ある施設を例に挙げると、雇用状況については職員50名に対して9名が外国人となっており、その事業所では約20%の方が海外の方となります。
(益田副委員長)	外国人雇用については、全く「0(ゼロ)」のところと、1つの事業所に多く雇用しているところがあり、受け入れ体制に偏りがあります。どんどん頼りにしている事業所もあるので、一概に全体の割合を見てもあまり当てにならないかもしれません。事業所ごとに実態が大きく異なるということですね。
(田中委員長)	分かりました。ありがとうございます。 個人的には、介護現場に海外の方が多く入ってきて、非常に一生懸命仕事をされているので、人材不足の解決手段として、できれば積極的に受け入れを担ってもらいたいと思います。町の方では、外国人の雇用に対し援助や補助等の制度はあるのでしょうか。
(小成課長)	はい。外国人の雇用・採用に際しては、「紹介・仲介業者」に対して非常に高額な手数料が発生することが課題となっています。そのため町では、事業者に対してその費用の一部を補助する制度を設けて支援を行っております。
(田中委員長)	ありがとうございます。他にはアンケートを踏まえてご意見等ある方はいらっしゃいますか。やはりアンケート結果から見えてくるのは、高齢者が老々介護になっている状況が多いという実態です。また資料1で見られた要支援1・2といった軽度の人たちはまだ動けますので、なんとか転倒を予防しフレイル状態から

(2)基本方針(案)について (高木主事補)	脱することができるようにすれば、要介護状態になるのを遅らせることができるのではないかと考えています。そのためにも、なるべく外出できるような環境づくりを積極的に進めるのが良いと思います。 アンケート調査結果については、ご意見等よろしいでしょうか。 それでは続いて「基本方針案について」ということで、事務局から説明をお願いします。 それでは第10期の計画策定における基本方針案についてお配りした資料4、資料5に沿ってご説明いたします。 まず資料4をご覧ください。1ページになりますが、美幌町においては第6期計画策定以降、「地域包括ケア計画」として位置づけ、段階的な体制構築を進めてまいりました。今回の第10期計画の策定においては、これまでの取り組みを継承発展し、高齢者の方が住み慣れた地域で安心・安全に暮らせるよう「地域包括ケアシステム」の深化を実現するための基本方針案を定めております。 なお、資料の赤字にて記載している部分が、今回の第10期計画策定にあたって変更した箇所になりますので、その変更点及び記載充実事項に絞ってご説明いたします。 1点目ですが、「中長期的な課題と単身高齢者への対応」です。方針1において、高齢化のピークとされる2040年度を見据えたサービス提供体制の検討を盛り込んでおります。また、方針2及び9においては、単身世帯の増加を踏まえ、頼れる身寄りのない高齢者への相談対応や支援について地域全体で推進することを明確化しております。 2点目ですが、「法改正への対応」です。方針3において認知症基本法の成立及び認知症施策推進計画に基づき、本人による意思表示の機会の確保、社会参加の推進、成年後見制度などの権利擁護の強化を図るものです。さらに3ページになりますが、方針10では改正された住宅セーフティネット法を踏まえ、住宅部局と福祉部局が連携した「居住支援と福祉サービスの一体的な提供体制の構築」への検討を推進することを明記しております。 3点目ですが、「人材確保と生産性向上」です。資料3ページの方針11として新たに項目を設けております。アンケート結果でも最大の課題として挙げられていた介護人材の確保に努めるとともに、介護テクノロジーの導入促進、また電子申請・届出システムの活用による事務負担の軽減と生産性向上を図ります。 その他、方針4から方針8における、介護予防や生きがいづくりについては、美幌町の強みを活かし、引き続き継続・発展させてまいります。 なお、お配りした資料5については、既存の第9期計画との比較資料となります。第10期計画策定に向けた基本方針案の主な変更点や国基本方針において記載を充実させるべき事項について記載しておりますが、内容は資料4と同様のため説明については割愛させていただきます。 以上、基本方針案についてご説明いたしました。よろしく願いいたします。
-----------------------------------	---

(田中委員長)	事務局より、資料４、５に基づく基本方針についての説明がございました。どなたかご質問、ご意見等がありますでしょうか。 資料５にもありますが、やはり今回の第１０期計画では「介護人材確保と生産性向上の推進」が入っており、人材確保がかなり重要な課題になってくると思います。また、先ほども申し上げましたが、方針１にもある「2040年度を見据えたサービス提供体制の検討」について、美幌町の場合は2040年を待つまでもなく、すでに高齢化問題がかなり深刻になると考えられます。非常に切迫した問題として、皆様から積極的なアイデアをいただければと思いますがいかかでしょうか。 医療の現場に目を向けてみると、「医療崩壊」はまず看護師不足から始まるのではないかと懸念しております。これは本当に喫緊の課題で、各医療機関自体も今後10年で非常に深刻な状況になってくると危惧しております。介護の現場についても同様です。なんとか人材が確保できるような環境が作れば一番いいのですが、他には何かご意見はありますか。
(佐藤真也委員)	アンケート結果を踏まえてお聞きしたいのですが、現在美幌町にある既存の介護施設や介護サービスに対して、「何が足りていないのか」、「どういうサービスを必要としているのか」についてです。アンケートの自由記述等のなかに一部ニーズが挙がっていたかと思います。そういったニーズに対して美幌町において具体的に何が不足しているのかももう少し簡潔に分かりやすく解説していただけますでしょうか。
(小成課長)	実態としましては、まず「訪問介護」のヘルパーさんが不足しており、「ヘルパーを利用したいけれども、利用枠がなく利用できない」という相談や不満の声を多く伺っております。今回の事業所アンケートにおいても、各事業所から「訪問介護サービスが不足している」という意見が非常に多く挙がっておりました。 もう１点、介護保険外あるいは関連サービスですが「移送サービス」が不足しています。町内に民間の移送サービス事業所が２件ありますが、それだけでは需要を賄い切れておりません。社会福祉協議会でも移送サービスを実施していますが、こちらも利用者が多く、日程や時間の調整が非常に難しいと伺っております。 最後に、「ケアマネジャー」の不足が極めて深刻です。ケアマネジャーになるには「実務経験５年以上」の受験資格が必要なほか、５年に１度、かなりの拘束時間と自己負担費用がかかる更新制度があります。そういった負担が影響しているのか、ケアマネジャーが激減しております。介護保険制度が開始された当初は、町内にもう少し多くの居宅介護支援事業所が存在していたのですが、現在は３か所しかなく、町内ケアマネジャーだけでは担当しきれないため、近隣の町外の居宅介護支援事業所からきてもらい、ケアプランを作成してもらっているというのが実情です。
(佐藤真也委員)	ありがとうございます。
(田中委員長)	訪問入浴サービスも町内には事業所がないんですね。

(小成課長)	失礼いたしました。訪問入浴についても町内に事業所はありません。
(田中委員長)	あと施設入所に関して、特別養護老人ホームの待機者数は現在何人待ちくらいなんですか。以前は100名から120名ほどいたかと思いますが、現在は減少傾向にあるのか、それともまだその状態が続いているのでしょうか。そうした実態も含めると介護の問題は以前として非常に深刻です。「100名近くが特養を待っている状態」が、果たして自治体として正常なのかを考えなければなりません。 また、訪問サービスやケアマネージャーが北見などから来てもらっているという課題も含め、現場は非常に困窮しています。町として、こうした課題をもう少し「深刻な問題」としてしっかり把握し、行政として主体的に考えていく必要があると思います。 今回の「介護サービスが充足しているか、不足しているか」という実態は、一般町民や我々にとっても、実感として分かりにくい部分がございます。可能であれば、そうしたサービスの充足度などの実態をさらに深く掘り下げて調査、分析してみることが、非常に大事ではないかと考えます。事務局の方でも、ぜひそのあたりの検討をよろしくお願いいたします。
4 その他 (田中委員長)	それでは、その他として今後の流れやスケジュールについて事務局から説明はございますか。
(小成課長)	今回の推進委員会では、現在進めている現行計画の「第9期計画」の進捗状況と実績について、年度途中ではございますがご報告いたします。そこで、現行計画の総括を行ったうえで、次期「第10期計画」へ繋げていく予定です。 同時に、第10期計画の具体的な計画項目及び概要案を提示させていただき、皆様からのご意見をいただきながら、具体的な計画を作り上げていく予定としております。
(田中委員長)	今回の推進委員会の開催時期はいつ頃になりますか。
(小成課長)	今回は10月中旬頃を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。
(田中委員長)	分かりました。次回は第9期計画の総括及び第10期計画の具体案についての審議となります。10月頃にまた開催されますので、皆様よろしくお願いいたします。
5 閉会 (田中委員長)	それでは以上をもって、本日の委員会を終了とさせていただきます。 皆様、本日は遅くまでお疲れ様でした。